

## 野外活動指導者養成講座実施報告書

【趣 旨】 青少年団体指導者及び野外活動に関心をもつ青年などが、野外活動に必要な知識・技術について研修し、指導者としての実践力を身に付ける。(指導者養成編)

小学生を対象としたプログラムを企画・運営することを通して、子どもとの関わり方を学び、指導者としての資質を向上する。(活動実践編)

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】 ①指導者養成編

第1回 平成28年 5月21日(土)～5月22日(日) (1泊2日)

第2回 平成28年 6月11日(土)～6月12日(日) (1泊2日)

第3回 平成28年 6月25日(土)～6月26日(日) (1泊2日)

②活動実践編

第1回 平成28年10月15日(土)～10月16日(日) (1泊2日)

第2回 平成28年11月25日(金)～11月27日(日) (2泊3日)

第3回 平成28年12月 3日(土)

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 青少年団体指導者、野外活動に関心がある青年等

【参加者数】 ①指導者養成編12人 ②活動実践編12人

【講 師】	NPO法人 ひろしまレクリエーション協会	会 長	鍋 島 一 仁
	はつかいちキャンプ協会	会 長	小 田 長
	広島大学大学院教育学研究科	准 教 授	米 沢 崇
	広島女学院大学国際教養学部	専 任 講 師	伊 藤 千 尋
	大柿自然環境体験学習交流館	館 長	西 原 直 久
	日本赤十字社広島県支部	救急法指導員	伊 藤 恵美子
	国立江田島青少年交流の家	企画指導専門職	

【企画・運営のポイント】

- (1) 広島大学、広島女学院大学が授業の一環として本事業へ参加しているため、この2大学と連携して事業の企画・広報を行う一方で、一般参加者向けにも対応できるものになるよう計画する。
- (2) 法人ボランティアの資格が容易に取得できるように、講師等との調整を図り、指導者養成編の第1回目に法人ボランティアのカリキュラムをまとめる。
- (3) 単なる知識・技術の習得に終わるのではなく、まずは自分が小学生の立場に立って、体験活動等をする。その後身に付けた知識・技術を活かして、実際に小学生を対象としたキャンプを企画・運営することで、指導者としての資質を向上させることをねらう。また、参加者同士の仲間意識の向上をめざし、さらなる資質向上のきっかけづくりとなるようにする。
- (4) 指導者養成編の最後に、異なる大学の学生で小学生キャンプのグループを編成する。自主的な活動が生まれるよう、活動実践編までの約3か月の間に、各グループの途中経過を報告し合う全体会を2回設定する。
- (5) 小学生キャンプへ向け、まずは全体の目的をはっきりと決める。そこからずれることがないようにプログラムも決め、各グループの話合いもそれに向けて目標を設定していくようにする。

【活動の実際】

①指導者養成編

第1回

5月21日(土)	10:00 10:30		12:00 13:00		14:30 15:00		20:00 21:00		22:30	
	受付	開講式	アイスブレイク 青少年教育施設の現状と運営Ⅰ [職員]	昼食	青少年教育施設におけるボランティア活動の理解 [小田]		野外炊事法・野外炊事演習 [職員]	青少年教育施設の現状と運営Ⅱ [職員]	入浴・就寝	
5月22日(日)	9:00		12:00 13:00		14:30 16:00					
	食い朝・・の清掃朝ど	救急法 [伊藤]		昼食	ボランティア活動の意義 [伊藤]	青少年教育の理解 [米沢]	まとめ	「法人ボランティア」全国28か所にある国立青少年教育施設にてボランティア活動をすることができます。		

第2回

6月11日(土)	10:00 10:30		12:00 13:00		14:00 16:00		17:00 19:00		20:30 22:30	
	受付	オリシエン	キャンプの特性 [鍋島]	昼食	キャンプの歴史・指導者・安全 [鍋島]	キャンプ用具の使用法とテント技術 [鍋島]	タベのつどい 夕食 休憩	対象や目的に応じた指導内容と指導技術 [鍋島]	入浴・就寝	
6月12日(日)	9:00		12:00 13:00		16:00					
	食い朝・・の清掃朝ど	キャンプの計画・運営・評価 [鍋島]		昼食	カッター研修 [職員]		まとめ	「キャンプ・インストラクター」地域で行われているさまざまなキャンプのマネジメントスタッフ、プログラムスタッフ、小グループのリーダーなどとして、よりよいキャンプが行われるよう支援ができます。		

第3回

6月25日(土)	10:00 10:30		12:00 13:00		16:00 17:30		19:00 20:30		22:30	
	受付	オリシエン	野外活動プログラムの企画・立案① [職員]	昼食	野外活動プログラムの企画・立案② [職員]	海辺の生物観察① [西原]	夕食	海辺の生物観察② [西原]	入浴・就寝	
6月26日(日)	9:00		12:00 13:00		14:30 15:30					
	食い朝・・の清掃朝ど	野外活動プログラムの企画・立案③ [職員]		昼食	野外活動プログラムの企画・立案④ [職員]	まとめ	閉講式			

②活動実践編

第1回

10月15日(土)	10:00 10:30		12:00 13:00		16:00 17:00		19:00 21:00		22:30	
	受付	開講式	グループワーク①	昼食	グループワーク②		タベのつどい・夕食・休憩	グループワーク③	入浴・就寝	
10月16日(日)	7:10 9:00		12:00 13:00		15:00 15:50					
	朝のつどい 朝食 清掃	グループワーク④		昼食	グループワーク⑤	まとめ	解散			

\* グループワークは、『小学生キャンプ』のプログラムの企画・立案・準備を行った。

※『小学生キャンプ』は、小学校4～6年生を対象に募集を行った。

第2回

11月25日(金)	15:00 17:00		19:00 21:00		22:30					
	受付		準備	タベのつどい・夕食・休憩	準備	入浴・就寝				
11月26日(土)	7:10 9:00		10:30 11:00		12:00 13:00		17:00 19:00		21:00	
	朝のつどい 朝食 清掃	ミーティング 準備	受付	開会式 アイスブレイク	昼食	活動①	タベのつどい・夕食・休憩	活動②	入浴・就寝	
11月27日(日)	9:00		12:00 13:00		14:00 15:50					
	朝のつどい 朝食 清掃	活動③		昼食	閉会式	後片付け	まとめ	解散		

網掛け部分で、『小学生キャンプ』を実施した。

第3回

12 月 3 日 (土)	15:00	16:00	17:00
	受付	グループワーク	まとめ
			閉講式



「救急法」



「野外炊事」



「カッター研修」



「キャンプ用具の使用法  
とテント技術」



「対象や目的に応じた指導内容と  
指導技術（キャンプファイアー）」



「野外活動プログラムの企画・立案」



小学生キャンプ  
「宝探し」



小学生キャンプ  
「キャンドルのつどい」



小学生キャンプ  
「野外炊事」

【成果】

- (1) 小学生キャンプの準備は、2つの異なる大学の学生が一緒になって役割分担し、設定した2回の全体会を軸に話し合いを行った。受講生は全体会以外にも自主的に集まって話し合いを行ったり、SNSを使って情報共有したりして準備を行った。また、メールを使って担当者に報告・連絡・相談を行い、キャンプを成功に導くための努力を惜しまず全員が一致団結して準備を行った。
- (2) 参加者は、指導者養成編で講師から学んだことを忠実に活動実践編の小学生キャンプの企画・運営に活かしていた。また、受講生は小学生キャンプを成功させるために様々な努力や工夫を行った。小学生の心が揺さぶられるようなキャッチフレーズやキーワードを考え、『江田島図鑑』を作成してワクワクするようなストーリー性をもたせたプログラム展開を行った。その結果、参加者アンケートには「楽しかった。」「来年もまた参加したい。」という記述がいくつも見られた。

- (3) 受講生が企画した小学生キャンプ『L e t ' s 未知へのチャレンジ i n 江田島〜わくわくと絆！ゲットだぜ！！〜』は大成功のうちに幕を閉じた。キャンプ終了後の参加者アンケートには「とても楽しかった。」「みんなで協力できて楽しかった。」「知らない子でもすぐに話しかけてくれて、初めて会った子と友達になれてうれしかった。」「友達になった子と一緒に話したり遊んだりして楽しかった。」という感想が見られた。このことから意図していた「わくわくするような楽しさや新たに会える友達との絆をゲットする」という小学生キャンプの目的を達成したことが感じられた。

#### 【今後の課題】

- (1) 指導者養成編終了後に、異なる大学の学生同士でも2回の全体会以外に、自主的に集まり、話し合う場を設定して、活動実践編に向けて準備を行っていた。効率よく進めるためには、受講生同士のコミュニケーションを深めていくことが大切である。指導者養成編において、アイスブレイクや野外炊事、キャンプファイヤー等のプログラム体験で受講生同士の絆を深めるとともに、 Cutter 研修を通して仲間意識を高め、一体感がもてるようにしていくことが重要になってくる。
- (2) 事業全体の受講生の満足度は98.5%であり、おおむね満足できるものであった。しかし100%には至らなかった。事業を進めるにあたって主催者側と受講生側に事業の進め方に対する思いのズレがあった。受講生が十分満足できるように改善していく必要がある。
- (3) 法人ボランティア登録を希望する受講生が約58%にとどまった。今後は、講座の中で、ボランティア活動の意義について訴え、体験活動の大切さを実感させていく必要がある。そのためにも、小学生キャンプを成功させ、充実感、満足感をもたせることによって、受講生全員がボランティア登録をしようと意欲をもてるように講座の内容の充実を更に図っていく。また、ボランティア登録を希望する受講生には教育事業等にボランティアスタッフとしての参加を促し、その中でフォローアップしていく。